

## 令和元年度 第2回SD研修会報告（FD・SD短大合同）

内 容	平成30年度宮崎学園の財政状況について
日 時	令和元年7月26日（金）13:30～14:30
場 所	宮崎学園短期大学 新館3階 35教室
進 行	宮崎国際大学 清田
出席者	Faculty 18人、Staff 11人（別紙参加者名簿）
<b>議 事 内 容</b>	
<p>最初に山下理事長から、資料1「宮崎学園の財政状況について」に基づき説明を受けた。</p> <p>1 「宮崎学園の財政状況について」</p> <p>平成30年度に実施した工事や学生定員充足率について説明された。高等教育無償化対象校選定の前提条件にもなっている経常収支差額は、当年度は1億200万円で2年連続赤字から黒字となった。当年度収支差額はプラス2千万円となり、これまでの累積収支差額は約12億円となっている。各学校・園が収容定員を充足し、学納金収入を安定させることが喫緊の課題である。更に、平成30年度の大学の当年度収支差額は、-16,898千円、短期大学の当年度収支差額は、66,657千円であることを説明された。</p> <p>引き続き宮崎学園本部の長利経理課長から、資料2「平成30年度財務比率」、資料3「学校法人会計における財務諸表解説」、資料4「平成30年度決算の概要」、資料5「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分（法人全体）」、資料6「損益分岐点分析（平成30年度）」の資料を基に「平成30年度宮崎学園の財政状況について」詳細な説明を受けた。</p> <p>2 「平成30年度宮崎学園の財政状況について」</p> <p>(1) 資料2 「平成30年度財務比率」</p> <p>全体の財務比率の見方について△は高い値が良い▼は低い値が良いなどを説明された。決算は2年連続で上向いていることを報告された。</p> <p>(2) 資料3 「学校法人会計における財務諸表解説」</p> <p>財務3表には、現金預金の収入・支出を明らかにする「資金収支計算書」、現金預金の流れだけでなく、現物寄付、退職給与引当金などの現金預金の出入りがないものも含めて収支を把握する「事業活動収支計算書」、資産と負債の状況を把握する「貸借対照表」があることを説明された。</p> <p>(3) 資料4 「平成30年度決算の概要」</p> <p>決算の概要について財務3表の資料に基づき詳細な説明がなされた。特に「事業活動収支計算書（損益計算書）」においては、経常収支差額が平成28年度が△49,214千円、平成29年度が△10,740千円であったが、平成30年度は102,453千円と黒字になっており、高等教育無償化対象校になるためにはプラスを維持していくことがとても重要になってくることを強調された。</p> <p>(4) 資料5 「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分（法人全体）」</p> <p>教育活動資金収支差額が3年連続でプラスであり、本学園はB0のイエローゾーンの予備的段階に位置している。もう少しで安定的な正常状態のAゾーンに移行できる段階まで来ていることを話された。</p> <p>(5) 資料6 「損益分岐点分析（平成30年度）」</p> <p>宮崎学園の学生現員は2,408名で、損益分岐点は2,353名である。その差数は55名多い。大学は428名の現員に対し損益分岐点が432名なので、4名足りていない。短期大学は548名の現員に対し損益分岐点が472名なので、76名多い。</p> <p>最後に宗和学長より、経営状態がB0からホップ・ステップ・ジャンプでAゾーンに行ける所まで来ているので、宮崎学園の財政健全化に向け大学と短期大学が手を携えて行ってほしい旨話された。</p>	